



*Encounter
with
Stradivari
2016*

SOS子どもの村JAPAN支援チャリティ・コンサート

ストラディヴァリウス
コンサート 2016

ストラディヴァリウス13挺の饗宴

2016年9月12日(月)

19:00 開演

福岡シンフォニーホール

[主催](公財)日本音楽財団/SOS子どもの村JAPAN支援チャリティ・コンサート実行委員会 [共催]公益財団法人 アクロス福岡
[助成](公財)日本財団/(公財)全国税理士共栄会文化財団/(公財)朝日新聞文化財団 [後援]オーストリア大使館/福岡県/
福岡市/福岡県教育委員会/(公財)福岡市文化芸術振興財団/子どもの村福岡後援会 [特別協賛]ルフトハンザ ドイツ航空会社
[協賛(順不同)]福岡トヨタ自動車株式会社/福岡トヨペット株式会社/トヨタカローラ福岡株式会社/トヨタカローラ博多株式会社/
ネットトヨタ福岡株式会社/えん株式会社/株式会社ゼンリン/大成印刷株式会社/株式会社ホテル日航福岡/株式会社やずや

Encounter with Stradivari 2016

日本音楽財団は、創立 20 周年を迎えた 1994 年より、クラシック音楽を通じた国際貢献として楽器貸与事業を開始いたしました。ストラディヴァリウス 18 挺、グァルネリ・デル・ジェス 2 挺を保有し、世界を舞台に活躍する一流の演奏家や若手有望演奏家に、国籍を問わず無償で貸与しています。また、世界的文化遺産ともいわれるこれらの楽器を次世代へ継承するため、管理者として保全に努めています。

日本音楽財団の事業は、日本財団の支援により実施しています。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

In 1994 commemorating the 20th anniversary, Nippon Music Foundation launched the “Instrument Loan Project” through which the Foundation has strived to make international contributions. The Foundation now owns 18 Stradivarius and 2 Guarneri del Gesu, and loans them gratis to internationally active musicians and young promising musicians regardless of their nationalities.

We would like to take this opportunity to express our sincere gratitude to The Nippon Foundation for their generous support to make our activities possible.

Program

構成：ハーゲン・クアルテット

Program by Hagen Quartet

ゲオルク・フィリップ・テレマン：

4つのヴァイオリンのための協奏曲 ト長調 TWV40:201 (約7分)

Georg Philipp Telemann : Concerto for 4 Violins in G major, TWV40:201

I. Largo e staccato II. Allegro III. Adagio IV. Vivace

1st violin	レイ・チェン Ray Chen
2nd violin	アラベラ・美歩・シュタインバッハー Arabella Miho Steinbacher
3rd violin	セルゲイ・ハチャトゥリアン Sergey Khachatryan
4th violin	スヴェトリン・ルセフ Svetlin Roussev

デーヴィット・ポッパー：

3つのチェロとピアノのためのレクイエム 作品 66 (約8分)

David Popper : Requiem for 3 Cellos and Piano, Op.66

1st cello	石坂団十郎 Danjulo Ishizaka
2nd cello	パブロ・フェランデス Pablo Ferrández
3rd cello	クレメンス・ハーゲン Clemens Hagen
Piano	江口 玲 Akira Eguchi

アントニン・ドヴォルザーク：

2つのヴァイオリンとヴィオラのための三重奏曲「テルツェット」ハ長調 作品 74 (約18分)

Antonín Dvořák : Terzetto in C major for 2 Violins and Viola, Op.74

I. Introduzione: Allegro ma non troppo II. Larghetto III. Scherzo: Vivace IV. Tema con Variazioni

1st violin	ヴェロニカ・エーベルレ Veronika Eberle
2nd violin	ライナー・シュミット Rainer Schmidt
Viola	ヴェロニカ・ハーゲン Veronika Hagen

ドミートリイ・ショスタコーヴィチ：

2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品 (約12分)

Dmitri Shostakovich : 5 Pieces for 2 Violins and Piano

I. Prelude II. Gavotte III. Elegy IV. Waltz V. Polka

1st violin	ルーカス・ハーゲン Lukas Hagen
2nd violin	有希・マヌエラ・ヤンケ Yuki Manuela Janke
Piano	江口 玲 Akira Eguchi

アストル・ピアソラ (ユキ・モリ編) :

6つのヴァイオリンとピアノのためのリベルタンゴ

(約4分)

Ástor Piazzolla (arr. by Yuki Mori) : Libertango for 6 Violins and Piano

1st violin	アラベラ・美歩・シュタインバッハー Arabella Miho Steinbacher
2nd violin	諏訪内晶子 Akiko Suwanai
3rd violin	ヴェロニカ・エーベルレ Veronika Eberle
4th violin	セルゲイ・ハチャトゥリアン Sergey Khachatryan
5th violin	レイ・チェン Ray Chen
6th violin	スヴェトリン・ルセフ Svetlin Roussev
Piano	江口 玲 Akira Eguchi

***** 休憩 Intermission *****

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル:

2つのヴァイオリンとピアノのためのソナタ ト短調 作品 2-6 HWV391

(約10分)

Georg Friedrich Händel : Sonata for 2 Violins and Piano in G minor Op. 2 No. 6 HWV391

I. Andante-Allegro II. Arioso III. Allegro

1st violin	セルゲイ・ハチャトゥリアン Sergey Khachatryan
2nd violin	アラベラ・美歩・シュタインバッハー Arabella Miho Steinbacher
Piano	江口 玲 Akira Eguchi

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン:

弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調 作品130より「カヴァティーナ」

(約7分)

Ludwig van Beethoven : "Cavatina" from String Quartet No. 13 in B-flat major, Op. 130

ハーゲン・クアルテット Hagen Quartet	
1st violin	ルーカス・ハーゲン Lukas Hagen
2nd violin	ライナー・シュミット Rainer Schmidt
Viola	ヴェロニカ・ハーゲン Veronika Hagen
Cello	クレメンス・ハーゲン Clemens Hagen

フェリックス・メンデルスゾーン:

弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20

(約33分)

Felix Mendelssohn : String Octet in E-flat major, Op.20

I. Allegro moderato, ma con fuoco II. Andante III. Scherzo. Allegro leggierissimo IV. Presto

1st violin	諏訪内晶子 Akiko Suwanai
2nd violin	スヴェトリン・ルセフ Svetlin Roussev
3rd violin	有希・マヌエラ・ヤンケ Yuki Manuela Janke
4th violin	レイ・チェン Ray Chen
1st viola	ヴェロニカ・ハーゲン Veronika Hagen
2nd viola(with cello)	石坂団十郎 Danjulo Ishizaka
1st cello	パブロ・フェランデス Pablo Ferrández
2nd cello	クレメンス・ハーゲン Clemens Hagen

プログラムノート

ハーゲン・クアルテット

ゲオルク・フィリップ・テレマン

4つのヴァイオリンのための協奏曲 ト長調 TWV40:201

I. Largo e staccato II. Allegro III. Adagio IV. Vivace

長年ハンブルクの音楽監督の職にあったマグデブルク生まれのゲオルク・フィリップ・テレマン(1681-1767)は、バロック時代の作曲家の中でも特に長命で生涯を通してたくさんの作品を残しています。バッハよりも年上でハイドンが古典派時代の最初の頂点を極めた頃に亡くなりました。テレマンの作曲した4曲の『4つのヴァイオリンのための協奏曲』は、いずれも4楽章から成り、「バス・コンティヌオ(通奏低音*)」がありません。1740年当時、こうした通奏低音をもたない「センツァ・バス」の作品が

流行の最先端だったのです。とはいえ、第四ヴァイオリンのパートには通奏低音の要素が含まれています。4つのパートは極めて複雑に入り組んでおり、印象派的と形容しても過言ではない響きを生み出しています。技巧的で娯楽性に富んだこれらの作品は、イタリアのトリオ・ソナタ形式で書かれており、言い伝えによればテレマンは自分のコンチェルトに「好んでイタリアの洋服を着せている」と語っていたそうです。

*バロック音楽の演奏技法で、チェンバロ、オルガンなどの奏者が低音旋律に和声を補いながら即興的に伴奏部を弾くこと。また、その低音部。

ダーヴィト・ポッパー

3つのチェロとピアノのためのレクイエム 作品66

プラハのカントル(教会音楽家)の息子として生を受け、のちにウィーン宮廷歌劇場の首席ソロ・チェロ奏者となり、伝説的なヘルメスベルガー四重奏団のメンバーでもあったダーヴィト・ポッパー(1843-1913)は、当時もっとも人気のある名チェリストのひとりでした。晩年はブダペストで後進の指導にあたり、大好きだったウィーン郊外のバーデンで亡くなりました。ポッパーは自身のチェロのために、後世に残る素晴らしい曲を数多く書いていて、なかには「3つのチェロとオーケストラ、あるいはピアノのため」

といった珍しい編成の作品もあります。『レクイエム 作品66』は、彼のハンブルクの友人で出版人だったダニエル・ラーター(1828-1891)に捧げられた追悼曲です。情感豊かなこの作品には次のような言葉が添えられています。「音楽と化した涙は/深い友情/終わることなき愛/忠実な愛の証。/去りし友よ/ささやかな贈り物を受け取ってほしい、/この友情の魂歌を。/音楽よ、慰めておくれ、心を癒しておくれ!」

アントニン・ドヴォルザーク

2つのヴァイオリンとヴィオラのための三重奏曲「テルツェット」ハ長調 作品74

I. Introduzione: Allegro ma non troppo II. Larghetto III. Scherzo: Vivace IV. Tema con Variazioni

チェコで肉屋の息子として生まれ、ロマン派を代表する作曲家となったアントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)は、自身がヴィオラ奏者でもあったことから弦楽器のための室内楽をこよなく愛していました。14曲に及ぶ弦楽四重奏曲のほか、この『テルツェット』のような2挺のヴァイオリンとヴィオラのための小品も書いています。ドヴォルザークが出版社に宛てた手紙には、「私は今、ちょっとした小品

“バガテル”を書いていますが、2つのヴァイオリンと1つのヴィオラというたった3つの楽器のための作品です。しかし、大編成の交響曲を作曲しているときと同じくらい幸せな気持ちで書いています」という言葉が綴られています。この『テルツェット』は「どちらかといえばアマチュア演奏家向け」に書かれたものですが、当時のアマチュアの演奏水準がいかに高かったかがよくわかります。愛らしい前奏に

続く旋律的な美しい第2楽章のラルゲットは、いかにもドヴォルザークらしいといえるでしょう。続く第3楽章のフリアントは、まさに情熱的なボヘミアの踊

りそのものです。コンパクトで刺激的な変奏曲風フィナーレが作品を華やかに締めくくります。

ドミートリイ・ショスタコーヴィチ

2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品

I. Prelude II. Gavotte III. Elegy IV. Waltz V. Polka

20世紀を代表する交響曲の作曲家の一人であるドミートリイ・ショスタコーヴィチ（1906 - 1975）は壮大なオーケストラ曲と全体主義体制下における当時のソビエト社会での日常を反映した弦楽四重奏曲の作曲家として知られています。また、小編成の作品も書いており、洒落た娯楽音楽や素晴らしい映画・劇中音楽を書くことでも群を抜く才能を発揮した人です。友人で仕事仲間だったレフ・アトヴマーンはそうした一連の作品を用いて複数の組曲を作っていて、

この『2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品』はその一例です。前奏曲は革命映画『馬あぶ』（1955）、2曲目のパリ風ガヴォットと3曲目のエレジーはバルザック原作の『人間喜劇』の付随音楽をもとに書かれています。4曲目の優雅なワルツの原曲は不明ですが、5曲目のポルカは1935年作のバレエ音楽『明るい小川』に既に含まれていて、いずれの作品もショスタコーヴィチの許可を得て編曲されています。

アストル・ピアソラ（ユキ・モリ編）

6つのヴァイオリンとピアノのためのリベルタンゴ

1973年に書かれたアストル・ピアソラ（1921 - 1992）の代表作、自由とタンゴを意味する『リベルタンゴ』は、リズムの魅力と優美なロマ風感性を見事にかけ合わせた何とも魅力的な作品です。「リベルタンゴは演奏者に自由に弾いてほしい」、「彼らが限界を感じるのは自らが抱える問題に直面するときだけで、外からの規制は全くない」とピアソラは言っています。彼は音楽家仲間と即興演奏をしながら絶えず自作に手を加え続けていたので、何をもって「オリジナル版」と呼べるのか定義するのは難しいのですが、『リベルタンゴ』のオリジナル編成は、従来

のタンゴ五重奏にチェロとエレキ・ギターを加えたものです。ユキ・モリ氏がこの曲を6つのヴァイオリンとピアノのために編曲しました。多くの偉大な作曲家がそうであるように、ピアソラは音楽を「真面目なもの」と「娯楽的なもの」に区別しませんでした。そして、「私の音楽は決して聴きやすいわけではありません。私の音楽を理解してくれる人は、考えることができる人なのだ、経験上申し上げることができます。私の音楽は考え、幸せになるためにあります。感性が豊かな人だけが、私の音楽に内在する情熱を感じ取ることができるのです」と語っています。

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

2つのヴァイオリンとピアノのためのソナタ ト短調 作品 2-6 HWV391

I. Andante-Allegro II. Arioso III. Allegro

ドイツ生まれのゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル（1685 - 1759）は、バロック時代を代表する作曲家で、英国ロンドンに移住してジョージ・フレデリック・ヘンデルと名乗るようになりました。数々の素晴らしいオペラやオラトリオの他、有名な管弦楽曲『王宮の花火の音楽』や『水上の音楽』を作曲し、また、数は多くありませんが幾つかの素晴らしい室内楽曲も書いています。若い頃、恐らく1707年にイタリアで作曲され、1733年に初出版された『トリオ・ソナタ作品 2』はふたつのヴァイオリンと通奏低音のた

めに書かれた合奏曲ですが、1907年にハンス・ジット（1850 - 1922）がピアノ伴奏用に編曲しています。プラハ生まれのドイツ人のジットは、ヴァイオリン奏者、指揮者、そして作曲家として活躍した人物で、ヘンデルの同作品をあえてあまりロマン派的に脚色せずに編曲することで人気を博しました。ヘンデルがまるで初期古典派の作曲家のように聴こえてくる編曲です。第6番のト短調のソナタは、従来のアンダンテとアレグロの楽章に歌うようなアリオソ*の楽章が加わる意外性があり、ヴェネチア楽派の影響

が明らかに聴いてとれます。ヘンデルは若い頃に書いた作品から多くの旋律を断片的にのちのオペラで

* イタリア語の語源で「アリア（歌曲）風」を意味する。

再利用していることから、彼のオペラを知る者には楽しみも倍増する作品です。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調 作品130 より「カヴァティーナ」

ベートーヴェン(1770 - 1827)の『弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調 作品130』は今日に至るまで西洋音楽の金字塔とされる彼の後期の弦楽四重奏曲のひとつで、時を超えてもお生き続ける現代性ゆえに演奏者、聴き手の双方にとって難解な作品です。全6楽章のうち、1826年1月に初演を披露した伝説的なヴァイオリン奏者イグナツ・シュパンツィツヒが「このまま手を加えないでほしい」とベートーヴェンに切願した楽章がひとつあります。他の楽章と比べて理解しやすく、聴きやすい第5楽章の『カヴァ

ティーナ』です。実は当初、同作品のフィナーレにはその難解さゆえに後に切り離され独立した作品となった『大フーガ』がありました。『大フーガ』と比較しても『カヴァティーナ』は決して簡単に演奏できるわけではなく、単に旋律的であることから分かりやすく感じるだけです。この題名に相応しく、第一ヴァイオリンの音域は人の声域内に留まっています。カヴァティーナというのは元々イタリア・オペラのアリアで、美しい旋律を持ち親密な愛を表現するときに好んで用いられました。

フェリックス・メンデルスゾーン

弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品20

I. Allegro moderato, ma con fuoco II. Andante III. Scherzo. Allegro leggerissimo IV. Presto

友人でチェリストのエドゥアルト・リーツ(1802 - 1832)のために『弦楽八重奏曲』を作曲したとき、メンデルスゾーン(1809 - 1847)は弱冠16歳でした。その頃、メンデルスゾーンはベルリン大学でヘーゲルやフンボルトのもとで哲学と歴史を学んでいましたが、音楽の分野では既に成熟した作曲家でした。メンデルスゾーンは「この弦楽八重奏曲ではすべての楽器がオーケストラ作品のように響かなくてはならない」と言っています。美しい旋律が溢れんばかりに次々と登場する若い頃のこの傑作は、まさに偉大な室内楽曲です。モーツァルトを手本にしているのは明白ですが、若々しい情熱がほとばしりつつもしっかりとした構造的な第1楽章からして、すでにメンデルスゾーンらしい作品になっています。ロマン派的な感情を古典派の形式に巧みに流し込んで

いく音楽は、ドイツの作曲家マックス・レーガー(1873 - 1916)いわく「この上なく高潔な人間による真なる表現」です。情熱的な語り口のやや重苦しい場面を経て、明るい曲調が戻ってきます。第2楽章でも複数の感情が断層的に交差しますが、音楽の構造は一貫してその透明性を失いません。スケルツォ楽章の「妖精の旋律」は、のちに書かれる『真夏の夜の夢』を先取りしていて、ゲーテの『ワルプルギスの夜(ファウスト第1部)』からインスピレーションを得ています。最終楽章も斬新なアイデアに満ち溢れていて、ひとつのフガートから延々と音楽が展開していきます。そして最後にスケルツォの主題が今一度顔を出し、讚美歌のように壮麗なフィナーレを迎えます。

Program Note

Hagen Quartet

Georg Philipp Telemann

Concerto for 4 violins in G major, TWV40:201

I. Largo e staccato II. Allegro III. Adagio IV. Vivace

Born in Magdeburg, Germany, Georg Philipp Telemann (1681-1767) was the music director of Hamburg for decades, and one of the most long-lived and prolific composers in the Baroque period. He was older than Bach and died when Haydn already led the Classical style to the first pinnacle. Telemann's "Four Concertos for Four Violins" are each written in 4 movements, and there is no Basso Continuo (the thorough-bass part). The music without a bass part called "Senza Basso"

was the most modern style around 1740. However, the elements of Basso Continuo are found in the fourth violin part. All four parts complicatedly merge and virtually result in creating almost impressionistic sound. These technical but highly entertaining concertos were written in the form of Italian trio sonata, and it has been said that Telemann liked to dress up his own concertos in "Italian clothes".

David Popper

Requiem for 3 Cellos and Piano, Op.66

David Popper (1843-1913), son of a cantor in Prague, was the principal solo cellist of the Vienna Court Opera, a member of the legendary Hellmesberger Quartet, and one of the most acclaimed cello virtuosos at the time. In his later years, he taught in Budapest and died in his beloved city, Baden, the suburb of Vienna. Popper wrote legendary masterpieces for his own cello including some of the pieces that are in unique formations

such as "Three Cellos and Orchestra, or with Piano". "Requiem Op.66" was dedicated to the memory of his friend and publisher, Daniel Rahter (1628-1891) of Hamburg. This highly emotional piece bears following verses. "Tears, turned to music,/ True friendship offers./ Love that can never end,/ True love dedicates./ Friend's heart, now gone,/ Take this little gift:/ What a friend's soul has sung,/ Sound out, console, refresh!"

Antonín Dvořák

Terzetto in C major for 2 Violins and Viola, Op.74

I. Introduzione: Allegro ma non troppo II. Larghetto III. Scherzo: Vivace IV. Tema con Variazioni

Antonín Dvořák (1841-1904), son of a Czech butcher, became one of the most representative composers of the Romantic period. He was also a violist and particularly loved chamber music for string instruments. He composed 14 works for string quartets and also short pieces such as "Terzetto" for two violins and viola. "I am writing a 'bagatelle', a short piece, just for three instruments: two violins and viola. However, I feel as happy as if I am writing a big symphony"

– he wrote to his publisher. Although it was written rather for "amateur players", this piece proves a high level of these amateur players at the time. The beautiful and melodious Larghetto of the second movement after the gentle prelude shows indeed Dvořák's unique character. The following third movement truly depicts passionate Bohemian dance. In the finale, short dramatic variations brilliantly conclude this piece.

Dmitri Shostakovich

5 Pieces for 2 Violins and Piano

I. Prelude II. Gavotte III. Elegy IV. Waltz V. Polka

Dmitri Shostakovich (1906-1975), one of the symphony composers representing the 20th century, is known for his orchestral masterpieces as well as for his string quartets reflecting a tragic life under the totalitarian Soviet regime at that time. Still he was an exceptionally talented composer of entertaining pieces and music to films and theatrical plays. His friend and colleague, Lew Atowmjan put Shostakovich's works together and made several suits including "5 Pieces for

Two Violins and Piano". The prelude is from the music to the revolutionary film "The Gadfly" (1955), and the second, Parisian Gavotte as well as the third, Elegy are from the incidental music to Balzac's theatrical play "The Human Comedy". The original work of the fourth, Waltz is uncertain, but the last Polka is from the ballet "The Limpid Stream" (1935). All pieces were arranged with Shostakovich's permission.

Ástor Piazzolla (arr. by Yuki Mori)

Libertango for 6 Violins and Piano

"Libertango", coined from liberty and tango, is Astor Piazzolla's (1921-1992) representative work written in 1973. It is a very charming piece full of fascinating rhythms and graceful feelings of Roma (Gipsy). "The musicians should play Libertango freely," said Piazzolla, "and if they feel enclosed within a boundary, it is because of their own difficulties. There should not be any restraint from outside." It is hard to define "the original version" as Piazzolla touched up his own compositions from time to time while improvising with his colleague

musicians, but "Libertango" was originally written for tango quintet with cello and electric guitar. Yuki Mori arranged this work for six violins and piano. Piazzolla, along with other great composers, did not distinguish "serious" and "entertaining" music. "My music is by no means easy to listen to. I can say from my own experiences that ones who understand my music are able to think. My music is for them to think and to be happy. Only those who are sensitive to emotions can embrace the passion within my music."

Georg Friedrich Händel

Sonata for 2 Violins and Piano in G minor, Op. 2 No. 6 HWV391

I. Andante-Allegro II. Arioso III. Allegro

Great composer in the Baroque period, Georg Friedrich Händel (1685-1759) was born in Germany. He was also known as George Frideric Handel after moved to London. He wrote numerous operas and oratorios as well as famous orchestral works such as "Music for the Royal Fireworks" and "Water Music". He also left a few but beautiful works for chamber music. "Trio Sonata Op.2", composed in his early years presumably in 1707 in Italy and first published in 1733, was originally written for two violins and Basso Continuo. In 1907, it was arranged for two violins and piano by Hans Sitt (1850-1922).

Prague born German, Hans Sitt was a violinist, conductor and composer who was acclaimed for arranging this Sonata without much influence of the Romantic music. As a result, it almost sounds as if Handel were a composer in the early Classical period. It is surprising to find lyrical Arioso between usual Andante and Allegro movements in this Sonata. This clearly shows the influence of the Venetian School. Those who know Händel's operas would enjoy this sonata even more as he partly used the melodies of his early works in his operas.

“Cavatina” from String Quartet No. 13 in B-flat major, Op. 130

“String Quartet No.13 in B-flat major, Op.130”, one of the late quartets of Ludwig van Beethoven (1770-1827), is considered as the crown jewels of the occidental music and is highly challenging for both players and audience for its timeless modernity. Among six movements, there is one movement that the legendary violinist, Ignaz Schuppanzigh, who premiered this quartet in January 1826, asked Beethoven not to modify it at all. That was “Cavatina” considered to be the

relatively easier and less complicated movement. However, “Cavatina” is no easier than the original final movement “Grosse Fuge”, which became an independent piece because of its complexity. Cavatina’s melodious expression only sounds easier to understand and play. The naming fits perfectly as the range of the first violin part falls within human vocal range. Cavatina is an aria in Italian opera and often used to express deep love.

Felix Mendelssohn

Octet in E-flat major, Op.20

I. Allegro moderato, ma con fuoco II. Andante III. Scherzo. Allegro leggierissimo IV. Presto

Felix Mendelssohn (1809-1847) was a mere sixteen when he wrote this “String Octet in E-flat major, Op.20” for his friend and cellist, Eduard Rietz (1802-1832). Mendelssohn was studying philosophy and history under Hegel and Humboldt at the University of Berlin, but at the same time, he was already an accomplished composer. Mendelssohn instructed, “This Octet must be played by all the instruments in symphonic orchestral style.” Written in his early years, this enthusiastic masterpiece full of beautiful melodies is indeed a great chamber music. Though unquestionably influenced by Mozart, his youthful temperament and compositional style seen even from the first movement show Mendelssohn’s own unique expression of romantic emotion in the classical

form. A German composer, Max Reger (1873-1916) remarked it as “a sincere expression of a true noble man”. In the first movement, cheerful mood returns after passionate emotion and profound melancholy part. The second movement explores complex emotions crisscrossing and transparent structure is kept throughout. Then comes Scherzo, inspired by Goethe’s “Walpurgis Night (Faust, Part One)”. This melody is a precursor of “A Midsummer Night’s Dream”. The final movement full of innovative ideas begins with a single fugato which continues to develop perpetually. The theme of Scherzo returns once again before the finale concludes the piece gloriously.



©Simon Fowler

皆様

この特別な「ストラディヴァリウス・コンサート2016」にお越しいただき、心より感謝申し上げます。

日本音楽財団と私とは、日本音楽財団の親財団である日本財団がザルツブルクのイースター音楽祭を10年以上にわたり支援していたこともあり、長い付き合いになります。私とその音楽祭の芸術監督を務めていた2004年には、日本音楽財団とイースター音楽祭が共催し、このような素晴らしい「ストラディヴァリウス・コンサート」を音楽祭の公式プログラムとして披露しました。

「ストラディヴァリウス!」その言葉の響きだけで楽器の素晴らしさを物語っているようです。しかし、単に優れているだけでなく、ストラディヴァリウスを操ることができる奏者の技術によってまるで楽器に命が吹き込まれたかのように、そこにはより深いミステリーがあるのです。ストラディヴァリウスは何世紀にもわたって、絶えず演奏家に課題を与え続け、更なる向上を促してきました。ストラディヴァリウスを弾いたことのある演奏家であれば、間違っても「ストラディヴァリウスは命を持たない物体である」とは思わないものです。ストラディヴァリウスは、奏者であれ、聴衆であれ、私たち皆に教え、時には異議を唱え、そして心触れ合わせるのです。

オーケストラや音楽家は、常に最高の演奏を生で届けることに全力を注いでいます。こうした努力は、最良の演奏条件が整い、最適な楽器を手にすることができ、そして、それを可能にしてくれる支援者がいるときに初めて実を結ぶことができるのです。日本音楽財団は、才能あふれる若い音楽家に最高の弦楽器を無償で貸与しており、楽器を貸与された演奏家達が自分の可能性を更に広げ、質の高い演奏をしていく上で計り知れない貢献をしています。2014年に、長年日本音楽財団の楽器貸与委員長を務められていた指揮者の故ロリン・マゼール氏からこの職を引き継ぎました。この大役に喜びを感じつつ、前向きに財団に協力していく所存です。

本日、演奏が全て日本音楽財団のストラディヴァリウスで行われるという極めて稀な演奏会を聴けることは、皆様ひとりひとりにとって忘れがたい思い出となるでしょう。この上ない貴重なひと時をどうぞお楽しみください。

日本音楽財団 楽器貸与委員会
委員長 サイモン・ラトル

Ladies and Gentlemen,

I would like to warmly welcome you to this extraordinary concert “Encounter with Stradivari 2016”.

My association with the Nippon Music Foundation started years ago. The Nippon Foundation, a parent Foundation to the Nippon Music Foundation, was a great supporter of the Salzburg Easter Festival for more than ten years. In 2004 while I was serving as its artistic director, the festival and the Nippon Music Foundation together presented similar fascinating all Stradivarius concert as the official program of the festival.

Stradivarius! The simple word feels like the definition of greatness in a musical instrument. But there is a greater mystery than mere excellence: the instruments seem to become living creatures under the fingers of a musician who can tame them. They constantly challenge the player as though after all these centuries they have become professors. Nobody who plays a Strad would ever make the mistake of imagining that it is an inanimate object! They teach, argue and converse with all of us, whether we are performers or listeners.

I believe any orchestra or musician is committed to the aim of playing music live with the highest standards of excellence. Such intentions can only be realised when optimum conditions prevail, the right instruments are available and partners are found who help to make this all possible. The Nippon Music Foundation makes a contribution of inestimable value to the quality of concerts by giving young and very talented musicians the best string instruments. I succeeded Maestro Lorin Maazel as the chairman of the Instrument Loan Committee in 2014 and feel honoured to continue to take this important task forward.

It is an extraordinary privilege to be able to experience a concert played on all the Stradivarius instruments in the Foundation and will remain unforgettable for each of you. May I wish you every joy on this magnificent occasion.

With warm regards,



Simon Rattle
Chairman
Instrument Loan Committee
Nippon Music Foundation



日本音楽財団の楽器貸与に係わる基本方針の策定並びに貸与者の選定は、楽器貸与委員会が行います。委員会は、欧・米・アジアの代表により構成されています。

The Instrument Loan Committee is responsible for making basic policies regarding the loaning of the instruments owned by Nippon Music Foundation and for selecting performers to whom the instruments are to be loaned. The Committee is composed of members representing Europe, the United States and Asia.

委員長 サイモン・ラトル
委員 マルタ・カザルス・イストミン
アナ・チュマチェンコ
チョン・キョン＝ファ
海老澤 敏
イヴァン・デ・ラオニア
カーティス・プライス
塩見 和子

Chairman Sir Simon Rattle
Members Marta Casals Istomin
Ana Chumachenco
Kyung-Wha Chung
Bin Ebisawa
Count Yvan de Launoit
Sir Curtis Price
Kazuko Shiomi

指揮者
マンハッタン音楽院元学長
ヴァイオリニスト、ミュンヘン音楽大学教授
ヴァイオリニスト、ジュリアード音楽院教授
尚美学園大学大学院名誉教授
ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール副理事長
オックスフォード大学ニュー・カレッジ学長
日本音楽財団会長

Conductor
Former President of Manhattan School of Music
Violinist, Professor at the University of Music and Performing Arts Munich
Violinist, Professor at The Juilliard School
Honorary Professor at Graduate School of SHOBI University
Vice President of The Queen Elisabeth International Music Competition, Belgium
Warden of New College, Oxford
Chairman of Nippon Music Foundation

Profile

ハーゲン・クアルテット

HAGEN QUARTET

ストラディヴァリウス「パガニーニ・クアルテット」
Stradivarius "Paganini Quartet"



©Harald Hoffmann

ルーカス・ハーゲン
LUKAS HAGEN

1727年製ヴァイオリン「パガニーニ」
Stradivarius 1727 Violin

ライナー・シュミット
RAINER SCHMIDT

1680年製ヴァイオリン「パガニーニ」
Stradivarius 1680 Violin

ヴェロニカ・ハーゲン
VERONIKA HAGEN

1731年製ヴィオラ「パガニーニ」
Stradivarius 1731 Viola

クレメンス・ハーゲン
CLEMENS HAGEN

1736年製チェロ「パガニーニ」
Stradivarius 1736 Cello

1981年に結成されたハーゲン・クアルテットは、30年間の長きにわたり活躍を続けている。結成当時より頭角を現し、室内楽コンクールで数々の受賞、また、ドイツ・グラモフォンとの専属契約を果たし、20年間で約45枚のCDをリリースした。現在はMyriosレーベルと契約している。コンサートやCDでは、ハイドン以前からクルターグまでの弦楽四重奏曲を幅広く取り入れ、魅力的で知的な構成となっている。四重奏団としての活動に加え、マウリツィオ・ポリーニ、内田光子、ザビーネ・マイヤー、クリスティアン・ツィメルマン、ハインリヒ・シフ、ヨルグ・ヴィトマン等との共演に加え、ニコラウス・アーノンクールやクルターグ・ジェルジュ等ともコラボレーションを行っている。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学、バーゼル音楽院の教師として、豊富な経験を次世代のクアルテットに継承している。

The unprecedented three-decade career of the Hagen Quartet began in 1981. From its early years, they were marked by a series of prizes in chamber music competitions and had an exclusive recording contract with Deutsche Grammophon which produced around forty-five CDs over the following twenty years. Now they are happy recording for the "Myrios" label. Their concert repertoire and discography feature attractive and intelligently arranged programs embracing the entire history of the string quartet, from its pre-Haydn beginnings right through to Kurtág. Collaborations with artistic personalities such as Nikolaus Harnoncourt and György Kurtág are as important to the Hagen Quartet as its concert appearances with performers including Maurizio Pollini, Mitsuko Uchida, Sabine Meyer, Krystian Zimerman, Heinrich Schiff and Jörg Widmann. As teachers at the Salzburg Mozarteum and the Hochschule in Basel, the quartet's members pass on their wealth of experiences to their younger colleagues.



©Marco Borggreve

ヴェロニカ・エーベルレ

VERONIKA EBERLE

ストラディヴァリウス 1700 年製ヴァイオリン「ドラゴネッティ」
Stradivarius 1700 Violin "Dragonetti"

1988 年ドイツに生まれる。6 歳からヴァイオリンを始め、リヒャルト・シュトラウス市立音楽院、2001 年からはアナ・チュマチェンコの下、ミュンヘン音楽大学にて学ぶ。16 歳でサイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と共演し、世界の注目を浴びた。これまでに、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックなどのオーケストラと共演し、指揮者では、サイモン・ラトル、ダニエル・ハーディングなどと定期的に共演している。シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、メックレンブルク・フォアポメルン音楽祭では一般聴衆から選ばれる特別賞を受賞。また、英国 BBC Radio 3 の権威ある新進音楽家育成プログラムのアーティストに選ばれた。

Veronika Eberle was born in Germany in 1988. She began taking violin lessons at six at the Richard Strauss Konservatorium in Munich. Since 2001, she has been studying under Ana Chumachenco at the University of Music and Performing Arts Munich. At sixteen her performance with Sir Simon Rattle and the Berlin Philharmonic brought her to international attention. Until now she has performed with the Royal Concertgebouw Orchestra and the Leipzig Gewandhaus Orchestra and the New York Philharmonic among others. She regularly collaborates with prestigious conductors including Sir Simon Rattle and Daniel Harding. She received the Audience Awards at the Schleswig-Holstein and the Mecklenburg-Vorpommern Festivals. She is also a winner of the BBC young generation scheme.

セルゲイ・ハチャトゥリアン

SERGEY KHACHATRYAN

ストラディヴァリウス 1709 年製ヴァイオリン「エングルマン」
Stradivarius 1709 Violin "Engleman"



©Marco Borggreve

1985 年アルメニアの音楽一家に生まれる。ドイツのカールスルーエ音楽大学にてヨーゼフ・リシンに師事。2000 年第 8 回シベリウス国際コンクールにおいて史上最年少 (15 歳) で優勝し、さらに 2005 年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールにて優勝した。世界を舞台に一流の指揮者、オーケストラと共演を重ねる他、姉のルジーン・ハチャトゥリアンと共に、ウィグモアホール、カーネギーホールなど音楽の殿堂でリサイタルを行っている。NHK 交響楽団とベートーヴェンの協奏曲で共演した 2014 年には、同楽団の聴衆から「最も心に残ったソリスト 2014」の第 1 位に選ばれている。録音においても、アルメニアの曲を収録した最新アルバム「My Armenia」など、音楽専門雑誌や大手新聞などで高く評価されている。

Born into a musical family in Armenia in 1985, Sergey Khachatryan studied with Josef Rissin at the Karlsruhe Music Academy in Germany. He won the first prize at the 2000 International Sibelius Competition at fifteen as the youngest ever winner in the history of the competition. He is also the Grand Prize winner of the 2005 Queen Elisabeth International Music Competition in Belgium. In 2014, he performed with the Vienna Philharmonic conducted by Gustavo Dudamel at the Lucerne Festival as the recipient of the Credit Suisse Young Artist Award. With his pianist sister Lusine, he has performed recitals at prestigious halls including Wigmore Hall and Carnegie Hall. His CD albums including the most recent album "My Armenia" have been highly praised by the world's major music magazines and press.



©Eric Manas

スヴェトリン・ルセフ

SVETLIN ROUSSEV

ストラディヴァリウス

1710年製ヴァイオリン 「カンポセリーチェ」

Stradivarius

1710 Violin "Camposelice"

1976年、ブルガリアのルセに生まれ、5歳から同市の音楽学校で音楽を学び始める。パリ国立高等音楽院ではジェラルド・プーレ、ジャン＝ジャック・カントロフ等に師事した。インディアナポリス、ロン＝ティボーや、メルボルン国際室内楽コンクール等で受賞した他、2001年には第1回仙台国際音楽コンクールで優勝。これまでにユーディ・メニューイン、レオン・フライシャー、マレク・ヤノフスキ、チョン・ミョンフン等著名な指揮者と共演している。特にチョン・ミョンフンの絶大なる信頼を得ており、同氏が音楽監督を務めるフランス放送フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに2005年に就任した。演奏活動に加え、パリ国立高等音楽院の教授に就任し、後進の指導にもあたっている。2015年4月より、ブルガリアのソフィア・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督に就任。

Born in Ruse, Bulgaria in 1976, Svetlin Roussev began studied at the music school in Ruse at five. Later he studied under Gérard Poulet and Jean-Jacques Kantorow at the Conservatoire de Paris. He has won numerous prizes at many international competitions including the Indianapolis, the Long-Thibaud, and the Melbourne Chamber. In 2001, he won the first prize at the first Sendai International Music Competition in Japan. He has performed with the world's renowned conductors such as Leon Fleisher, Yehudi Menuhin and Myung-Whun Chung. Greatly trusted by Myung-Whun Chung, in 2005, he was appointed as the concertmaster of the Radio France Philharmonic Orchestra. As a professor he serves Conservatoire de Paris and also he is the artistic director of the Sofia Philharmonic Orchestra in Bulgaria.

諏訪内 晶子

AKIKO SUWANAI

ストラディヴァリウス

1714年製ヴァイオリン 「ドルフィン」

Stradivarius

1714 Violin "Dolphin"



©Tamihito Yoshida

江藤俊哉氏に学び、桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学卒業。1990年に史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。文化庁芸術家在外派遣研修生として1991年からジュリアード音楽院にてドロシー・ディレイ、チョーリャン・リンに師事し、同時にコロンビア大学でも学んだ。これまでに、ニューヨーク・フィルハーモニック、フィラデルフィア管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団等数々のオーケストラと共演し、国際的な活動を続けている。積極的に現代作曲家の作品にも取り組んでおり、ルツェルン音楽祭にて、エトヴェシュ作「ヴァイオリン協奏曲《セブン》」の世界初演を行った。2012年、2015年、ベルギーのエリザベート王妃国際コンクールの審査員を務めた。2012年より「国際音楽祭 NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。

A graduate of Toho Gakuen School of Music, Akiko Suwanai studied the violin with Toshiya Eto. In 1990, she became the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition. From 1991, she studied under Dorothy DeLay and Cho-Liang Lin at The Juilliard while also attending Columbia University. She performs regularly with renowned orchestras such as the New York Philharmonic, the Philadelphia Orchestra, the Berlin Philharmonic and the London Symphony Orchestra. She is active bringing out the contemporary works among which she performed the world premiere of Peter Eötvös' violin concerto "Seven" at the Lucerne Festival. She served as a jury member of the Queen Elisabeth International Violin Competition in Belgium. In 2012, she launched the International Music Festival NIPPON.



©Chris Dunlop

レイ・チェン

RAY CHEN

ストラディヴァリウス

1715年製ヴァイオリン [ヨアヒム]

Stradivarius

1715 Violin "Joachim"

1989年台湾生まれ、オーストラリア育ち。15歳でカーティス音楽院入学を許可され、アーロン・ロザンドに師事した。2008年ユーディ・メニューイン国際コンクール、2009年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールにて優勝を飾る。これまでに、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、フランス国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団など数々の著名なオーケストラと共演している。度々来日しており、最近では、佐渡裕がウィーンの名門トーンクンストラ管弦楽団の音楽監督に就任したことを記念し開催された日本ツアーにソリストとして参加した。ソニー・クラシカルより2011年に発売されたデビューアルバム「Virtuoso」は音楽専門誌や大手新聞で取り上げられ、また、同年のドイツ・エコー・クラシック・アワードを受賞した。

Born in Taiwan in 1989 and raised in Australia, Ray Chen is the winner of the 2008 Yehudi Menuhin Competition in London and the 2009 Queen Elisabeth International Violin Competition in Belgium. At fifteen, he was accepted to the Curtis Institute of Music, where he studied with Aaron Rosand. He has performed with prestigious orchestras such as the Leipzig Gewandhaus Orchestra, the London Philharmonic Orchestra and the National Symphony Orchestra (USA). On Bastille Day in 2015, he joined Daniel Gatti and the Orchestre National de France for a televised concert on the Champs-de-Mars in Paris in front of an audience of over 800,000. His premiere album "Virtuoso" released on Sony Classical in 2011 won the Germany's prestigious ECHO Klassik Award of the same year.

アラベラ・美歩・シュタインバッハー

ARABELLA MIHO STEINBACHER

ストラディヴァリウス

1716年製ヴァイオリン [ブース]

Stradivarius

1716 Violin "Booth"



©Jiri Hronik

ドイツ人の父と日本人の母の下ミュンヘンに生まれる。9歳でミュンヘン音楽大学のアナ・チュマチェンコの最年少の生徒となり、さらに、ヴァイオリンの巨匠イヴリー・ギトリスからも薫陶を受ける。2004年パリで、ネヴィル・マリナー指揮フランス放送フィルハーモニー管弦楽団との初共演で成功を収めたことを機に、ソリストとしてのキャリアをスタートさせた。以来、ロリン・マゼール、クリストフ・フォン・ドホナーニ、リッカルド・シャイー等著名な指揮者、ロンドン交響楽団、バイエルン放送交響楽団、シカゴ交響楽団、クリーヴランド管弦楽団等世界のトップオーケストラと共演を重ねている。ルツェルン音楽祭弦楽合奏団との共演によるモーツァルトのヴァイオリン協奏曲を収録したCDは、グラモフォン・アワード2014のレコーディング・オブ・ザ・イヤーにノミネートされた。

Born in Munich to a German father and a Japanese mother, at nine Arabella Miho Steinbacher became the youngest student of Ana Chumachenco at the University of Music and Performing Arts Munich. Further musical guidance was provided by Ivry Gitlis. Her career was launched in 2004 with an extraordinary debut with the Radio France Philharmonic Orchestra under Sir Neville Marriner in Paris. Since then, she has performed with such distinguished conductors such as Lorin Maazel, Christoph von Dohnányi and Riccardo Chailly and with world leading orchestras such as the London Symphony Orchestra, the Bavarian Radio Symphony Orchestra and the Cleveland Orchestra. Her latest CD of Mozart violin concertos was nominated for the Gramophone Award as the recording of the year 2014.



有希・マヌエラ・ヤンケ

YUKI MANUELA JANKE

ストラディヴァリウス
1736年製ヴァイオリン 「ムントツ」
Stradivarius
1736 Violin "Muntz"

1986年ミュンヘンにてドイツ人の父と日本人の母の音楽一家に生まれる。5歳でドイツ青少年音楽コンクールの8歳以下最年少グループで優勝、9歳でソリストとしてオーケストラと共演し鮮烈なデビューを飾った。2004年パガニーニ国際コンクール最高位と三つの副賞全てを受賞、2007年チャイコフスキー国際コンクール第3位、同年のサラサーテ国際ヴァイオリン・コンクール(スペイン)では優勝を果たした。これまでに、ベルリン放送交響楽団、ケルン WDR 交響楽団、ナショナル・フィルハーモニック管弦楽団(英国)、NHK 交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団等とソリストとして共演している。2012年から2年間、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団の460年に及ぶ史上初の女性コンサートマスターを務め、2015年8月にはベルリン国立歌劇場管弦楽団のコンサートマスターに就任した。

Yuki Manuela Janke was born to a German father and a Japanese mother in Munich in 1986. After the early success at five in German competition for young musicians, she made a successful debut at nine. In 2004, she won the second prize (with no first prize) at the International Paganini Competition. In 2007, she was awarded the third prize at the 13th International Tchaikovsky Competition and the first prize at the Sarasate International Violin Competition. She has performed with notable orchestras such as the Radio Symphony Orchestra Berlin, the WDR Symphony Orchestra Cologne and the National Philharmonic Orchestra (UK). In 2012 she was appointed as the first female concertmaster in the 460-year-history of the Staatskapelle Dresden and now serves as the concertmaster of the Staatskapelle Berlin.

パブロ・フェランデス

PABLO FERRÁNDEZ

ストラディヴァリウス
1696年製チェロ 「ロード・アイレスフォード」
Stradivarius
1696 Cello "Lord Aylesford"



1991年、音楽家の両親の下、マドリッドに生まれる。マリア・デ・マセド及びアシエル・ポロに学び、その後、13歳でマドリッドのソフィア王妃高等音楽院にてナタリア・シャコフスカヤの下で研鑽を積む。現在は、ドイツのクロンベルク・アカデミーでフランス・ヘルメルソンに師事している。2008年オーストリア、リーツェン国際コンクール優勝を機に頭角を現し、2013年パウロ国際チェロ・コンクール準優勝、2015年チャイコフスキー国際コンクール入賞など数々の賞を受賞している。これまでにヴァレリー・ゲルギエフ指揮マリンスキー歌劇場管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団など著名なオーケストラと共演した。最近では、若い演奏家を支援する「Mutter's Virtuosi」のメンバーとしてアンネ・ゾフィー・ムターと共演を重ねており、2017年には、ムター及びロンドン・フィルハーモニー管弦楽団とブラームスの二重協奏曲を演奏する。

Pablo Ferrández was born into a musical family in Madrid in 1991. He took lessons from María de Macedo and Asier Polo and at thirteen he entered the Queen Sofia College of Music in Madrid where he studied under Natalia Shakhovskaya. He currently studies under Frans Helmerson at Kronberg Academy in Germany. He received the first prize at the 2008 Liezen International Cello Competition and the second prize at the 2013 International Paulo Cello Competition. Also he was the prize winner at the Tchaikovsky Competition in 2015. He has performed with notable orchestras including the Mariinsky Theatre Orchestra under Valery Gergiev and the St. Petersburg Philharmonic Orchestra. He also frequently performs with Anne-Sophie Mutter and Mutter's Virtuosi and in March 2017, he will perform Brahms' Double Concerto with Mutter and the London Philharmonic Orchestra.



©Marco Borggreve

石坂 団十郎

DANJULO ISHIZAKA

ストラディヴァリウス

1730年製チェロ 「フォイアマン」

Stradivarius

1730 Cello“Feuermann”

ドイツで日本人の父とドイツ人の母の下に生まれる。ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でボリス・ペルガメンシコフに師事。1998年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール、2001年ミュンヘン国際音楽コンクール・チェロ部門で優勝し、2002年には、第1回エマヌエル・フォイアマン・コンクールでグランプリを獲得。2003年、クシシュトフ・ペンデレツキ指揮ウィーン交響楽団との共演が世界に羽ばたく契機となり、世界中の著名な指揮者やオーケストラと共演するとともに、室内楽奏者として一流の演奏家とも共演している。2005年に発売されたデビューCDは2006年ドイツ・エコー・クラシック・アワードを受賞。また、2014年にはパヴェル・ハース四重奏団と共演したCDが英グラモフォン室内楽部門を受賞した。2012年には、彼の目覚ましい活躍とクラシック音楽界への貢献が顕彰され、齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞した。

Born to a Japanese father and a German mother, Danjulo Ishizaka studied with Boris Pergamenschikow at the Hans Eisler Music School in Berlin. He is the first prize winner of the International Gaspar Cassado Cello Competition in 1998, the ARD Music Competition in Germany in 2001 and the Grand Prix Emanuel Feuermann in 2002. Since his internationally-acclaimed appearance with the Vienna Symphony Orchestra with Krzysztof Penderecki, he has performed with notable orchestras and conductors of the world. He received the Germany's ECHO Klassik Award for his debut CD in 2006 and the Gramophone Award for his recording with the Pavel Haas Quartet in 2014. In 2012, he was honoured with the Hideo Saito Memorial Fund Award for his exceptional performances and contributions towards the development of classical music.

江口 玲

AKIRA EGUCHI

ピアノ

Piano



©Rikimaru Hotta

東京藝術大学音楽学部作曲科、ジュリアード音楽院ピアノ科大学院修士課程、及びプロフェッショナルスタディーを卒業。欧米及び日本をはじめとする各国でのリサイタルや室内楽、協奏曲の他、ギル・シャハム、諏訪内晶子、竹澤恭子、アン・アキコ・マイヤース等、数多くのヴァイオリニスト達と定期的に共演。現在は東京、ニューヨークと二つの拠点を行き来し、国際的な活躍を続ける。ニューヨークタイムズ紙からは「非凡なる芸術性、円熟、知性」「流暢かつ清廉なるピアニスト」と賞賛され、これまでにカーネギーホールはじめ、演奏で訪れた国は25カ国に及ぶ。レコーディングはドイツグラモフォン、フィリップス等で計30枚以上、NYS CLASSICSより15枚のソロアルバムをリリースし、レコード芸術誌での特選盤選出など、高い評価を得ている。現在、洗足学園音楽大学大学院客員教授、東京藝術大学准教授を務めている。

Akira Eguchi received a degree in Music Composition from Tokyo National University of Fine Arts and Music and Master's Degree in Piano Performance from The Juilliard. He has studied with Herbert Stessin, Samuel Sanders, Hitoshi Toyama, Akiko Kanazawa etc. He has won the Aleida Schweitzer Award for the outstanding accompanist at the International Wieniawski Violin Competition in 1986 and the William Petchek Award and Prize from The Juilliard in 1992. He has performed at such prestigious venues as Carnegie Hall, Musikverein and Barbican Centre. Introduced by Isaac Stern, he played for President Clinton at the White House. Most of his released CD includes latest "Beethoven Klaviersonaten" were selected as the best recordings of the month of the Record Geijutsu Magazine. He serves as a guest professor at Senzoku-Gakuen Music College and as an Associate Professor at Tokyo National University of the Arts.



ごあいさつ

この度は、日本音楽財団様に素晴らしいチャリティコンサートを企画していただきまことにありがたく御礼申し上げます。

「SOS 子どもの村 JAPAN」は、去る 2016 年 6 月 23 日にインスブルック（オーストリア）で開催された「SOS 子どもの村インターナショナル」の総会で正式に加盟が認められ、国際機関の一員として新たな一歩を踏み出しました。



2010 年の「子どもの村福岡」の開村以来、誠に多くの皆様方のご理解、ご支援を賜りながら今日に至っております。

社会情勢も変わりゆく中、まだまだ多くの課題を抱えており、一層の努力を積み重ねていかねばなりません。

さまざまな理由であたたかい家庭で暮らすことができない子どもたちが国内外で増えつつある中で、わたしたちの活動は多くの方々の関心を頂くとともに、問題解決の一助となるようご期待いただいているものと感じております。

-SOS 子どもの村インターナショナルとは-

SOS 子どもの村とは、代替養育と家族支援を専門とする国際組織です。1949 年に設立された SOS 子どもの村は、「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンとして、親からの養育を受けることができない子どもたちを世界に広がる「子どもの村」で養育するとともに、家族を失う危機にある子どもと家族の支援を行なっています。また、国連や欧州評議会、NGO グループなどとも連携し、代替養育と家族支援の専門組織として世界をリードしています。



理事長 福重 淳一郎



オーストリア共和国臨時代理大使
ヘルベルト・ピッヒラー全権公使



Dr. Herbert PICHLER, Minister Plenipotentiary
Austrian Embassy Charge d' Affaires ad interim

恵まれない子どもたちの養育は日本とオーストリアにとって共通の課題です。

「日本 SOS 子どもの村」が 2010 年 4 月にオーストリアの子どもの村に因んで福岡で子どもの村を開村させたことは我々の心を動かしました。

その一年後、多くの子どもたちが東日本大震災の犠牲者となり、二番目の日本の子どもの村「子どもの村東北」が設立されました。

日本は 6 月 23 日に SOS 子どもの村インターナショナルの 135 番目の加盟国となりました。「子どもの村福岡」および「子どもの村東北」の関係者に対して、今後益々のご活躍と多くの方に支援されることを願っております。

日本の子どもの村のためにストラディヴァリウスの名器勢揃いの豪華なコンサートを開催する主催者日本音楽財団に対して御礼申し上げます。

この素晴らしい演奏をご堪能ください!

ヘルベルト・ピッヒラー



諏訪内晶子 ストラディヴァリウス1714年製ヴァイオリン「ドルフィン」使用
Akiko Suwanai Stradivarius 1714 Violin "Dolphin"

“ドルフィン”で演奏するようになってから 自分の音をよく聴くようになりました

I listen to how I sound more carefully with “Dolphin”

かのヤッシャ・ハイフェッツが愛用したという“ドルフィン”。諏訪内晶子は16年間弾き続け、「いまだにポテンシャルの底は見えない」と語る。

“Dolphin” is known to be the beloved instrument of the great virtuoso, Jascha Heifetz.

“I still have not seen the limit of its potential,” said Akiko Suwanai who has been playing this instrument for 16 years.

諏訪内は2000年の夏から“ドルフィン”を貸与されている。

その少し前、現在は日本音楽財団が所有している“ジュピター”を3週間使ったことがあり、そのあまりの素晴らしさを知ってしまい、使い続けることができない喪失感から立ち直れないでいた。

その頃、財団を訪ねて“ドルフィン”を試奏する機会があった。しかしわずか20秒で「ありがとうございました」と楽器を置いた。「素晴らし過ぎて、それ以上弾くのが怖くなった。『虜になって魂を抜かれてしまう!』と本気で思いました」

熟考の末、日本音楽財団に正式に“ドルフィン”の長期貸与を申し入れ、財団の楽器貸与委員会の審査を受けた。“ドルフィン”で演奏するようになったが、最初から簡単に弾けたわけではない。

「長期間弾かれていない楽器だったので、前に使っていた方の痕跡は何もありませんでした。と言うのも、それまでに使っていた楽器には前に弾いていた方の音ははっきりと残っていたからです。一から自分ですべての音を作っていく感じでした」

ハイフェッツが「四つの弦がバランス良く鳴る」と語っているラジオ録音を諏訪内は聞いたが、彼女自身もそう感じている。ストラディヴァリウスとしては大振りな重い。弓を選ぶのにも長い試行錯誤があった。

「16年経った今でも音に惚れ惚れしてしまいます(笑)。“ドルフィン”で演奏するようになってから、楽器に教えられることが多く、自分の音を聴くようになりました。どのオーケストラと共演しても、豊かな音と色彩が際立ちます」

(音楽雑誌「サラサーテ」2016年8月号より抜粋)

“Dolphin” has been on loan to Suwanai since the summer 2000.

Shortly before “Dolphin”, she had a three-week opportunity to play another Stradivarius owned by Nippon Music Foundation, the 1722 Violin “Jupiter”. She was so fascinated by “Jupiter” that she felt a great sense of loss when she had to return it.

Around the same time, she was given another opportunity to try “Dolphin” at the foundation. However, after trying only 20 seconds, she decided to return the instrument, saying “Thank you very much”. “The violin was so amazing that I was fearful of playing it any longer. I was really worried that it would captivate me and steal my soul.”

After careful consideration, she applied to Nippon Music Foundation for the long term loan of “Dolphin” and auditioned before the members of the foundation’s Instrument Loan Committee.

She started to get to know “Dolphin”, yet she found it not so easy to play at first. “‘Dolphin’ had not been played for a long time, and there was no trace of previous players left on it. All the instruments I had played before clearly carried the sound of previous players. With ‘Dolphin’, it felt as though I was developing its sound of my own.”

Suwanai once heard a recording of Heifetz talking on radio about “Dolphin”, “all four strings resonate with perfect balance”, and she feels the same. “Dolphin” is relatively larger and heavier for a Stradivarius. It took her some time to even choose a right bow.

“After 16 years of time together, I am still deeply in love with its sound. Over the years, ‘Dolphin’ had taught me a lot, and I became more careful with how I sound. No matter which orchestra I perform with, its rich sound and colour stand out.”

(Excerpted from “Sarasate” August 2016 issue)



有希・マヌエラ・ヤンケ
Yuki Manuela Janke

ストラディヴァリウス1736年製ヴァイオリン「ムンツ」使用
Stradivarius 1736 Violin "Muntz"

楽器に弾き方を教わっています

The instrument teaches me

ヤンケに“ムンツ”が貸与されたのは2007年11月。すでに8年半演奏活動を共にしている。だが、弾きこなすことができるまでには2年間に要したという。

The “Muntz” was first loaned to Janke in November 2007. Now having played it for eight and a half years, she reflects that it has taken two years to fully feel comfortable with the instrument.

「ムンツを実際に弾いてみて“じゃじゃ馬”というか、音色はとても美しいけれど、弾きこなすにはかなり時間がかかりそうだと思います。自分ではきちんと弾けているつもりなのに、楽器はちゃんと鳴ってくれないという状況がありました」

当時21歳の彼女に、それまでストラディヴァリウスを弾く機会はもちろんほとんどなかった。それまではドイツの財団から貸与されたカルロ・アントニオ・テストレー（1693～1765、ミラノ派）の楽器を7年間くらい使っていた。

「テストレーは美しい楽器なのですが、自分がもっと成長するためには限界かなと感じていました。奏者には『ここはこういう色を出したい』というのがあって、でも楽器から『これ以上無理です』という反応が来てしまいます（笑）。そこで自分の意思で日本音楽財団のオーディションに応募しました」

ムンツの貸与を受けてから参加した「ストラディヴァリウス・コンサート」で、東京クワルテットのメンバーに「あれは扱いは難しいので有名なんだよ」と言われた。

四苦八苦すること2年。

「2年経って、力づくで無理に何かを出そうとするのではなく、“楽器に弾き方を教わる”ということを理解しました。直線的な音しか出ないと思っていたのですが、柔らかい深い音色を出せることがわかるようになりました。この楽器の音色には、何段階もの奥行があって、それぞれの場面にそれを引き出せるのです」

「今は新しい曲でも、以前弾いた曲でも『あっ、こんなこともできるんだ』ということが常にあってとても楽しい」と微笑む。「楽器の限界なんて、まったく感じません」と言い切る。

（音楽雑誌「サラサーテ」2016年4月号より抜粋）

“When I first played the ‘Muntz’, the tone was remarkably beautiful, yet it was like ‘an uncontrollable horse’. I felt it requires quite some time until I definitely feel comfortable with the instrument. There were moments I thought I was playing properly, but the instrument didn’t respond in a way I wished.”

Janke, at the time age 21, rarely had opportunities to play the Stradivarius before. She had been playing the Carlo Antonio Testore (1693-1765 Milan) loaned from a German foundation for about 7 years.

“Testore was a wonderful instrument, but at the same time, I felt its limit to further pursue my musical progress. When playing, I would like to bring out a certain colour of tone, but the instrument responds ‘this is the best I can’. It was my own decision to apply for Nippon Music Foundation’s audition.”

After the loan of “Muntz” started and when she took part in the “Encounter with Stradivari” for the first time, a member of Tokyo String Quartet said “that instrument is not that easy to play”.

She struggled for two years.

“Only then, rather than forcing, I finally realized I need “the instrument to teach me”. I thought this instrument can only convey linear sound, but I learned that it also has tender and deeper sound. There are many layers of depth in sound, which can be retrieved at each moment.”

She smiles and says, “Even now, I continue to find ‘something new’ in playing whether the piece is new or familiar to me. There is no limit to this instrument.”

（Excerpted from “Sarasate” April 2016 issue）



石坂団十郎
Danjulo Ishizaka

ストラディヴァリウス1730年製チェロ「フォイアマン」使用
Stradivarius 1730 Cello "Feuermann"

楽器によって演奏も音楽も変わりました The instrument has changed my music and how I sound

その才能と活躍ぶりから以前は1696年製「ロード・アイレスフォード」を日本音楽財団から貸与されていた石坂。2013年から同財団の「フォイアマン」を使用している。「ようやく楽器の音がわかってきた」と言うが、まだまだ互いに可能性があると語る。

Already recognized as a talented and successful cellist, Ishizaka previously had a privilege of playing the Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford" on loan from Nippon Music Foundation. Since 2013, he has been playing "Feuermann" also on loan from the foundation. "I finally began to understand the genuine sound of this instrument" says Ishizaka. He believes that there are still infinite possibilities between himself and the instrument.

「ロード・アイレスフォードはとても大きい楽器でした。ストラディヴァリウスの初期のチェロ。このフォイアマンは最も小ぶりの楽器で、ソリスト用によく音の通る楽器を作ろうとストラディヴァリが「ピッコロ・チェロ」（小さなチェロ）を考案し始めた頃のものだそうです。演奏方法も全く変える必要がありました」

石坂はこの楽器の名前のもとになったエマヌエル・フォイアマンを尊敬しており、また第1回フォイアマン・コンクールで優勝しているということに縁を感じている。「彼の録音を色々持っていて演奏はよく知っていましたが私にとって特別な楽器です。フォイアマンは繊細で軽い弾き方をするのに、よく鳴らし、彼自身が「弾いている」というより音楽だけが伝わってきました。自分でもチャレンジしてみたのですが聴くと弾くとでは大違い（笑）。2年半経ってようやく少し楽器と手を取り合えるようになりました」

この楽器の音がとても好きだという。石坂の持つ低音の魅力やダイナミクレンジの広さ、シャープなテクニックに加え、音色の変化や繊細な表現を手に入れたつある。「ハイドンなど古典派をきちんと演奏するのにとても向いています。弓の使い方が変わりましたね」

ストラディヴァリウス・コンサートへの出演は海外も含めて8回目となる。「いつもホッとします。尊敬する音楽家たちと会うことや、一緒に演奏することは楽しみです」と石坂。今回のコンサートでは、石坂の発案で、メンデルスゾーンの弦楽八重奏曲をヴァイオリン4本・ヴィオラ1本・チェロ3本で演奏する。石坂は第二ヴィオラパートをチェロで演奏するのだ。

「編曲したものを弾くのは好きですね。良い曲ならチェロで弾いてみたい」

意欲旺盛。楽しみに聴きたい。

（音楽雑誌「サラサーテ」2016年6月号より抜粋）

“‘Lord Aylesford’ was a big instrument made in Stradivari’s early period. ‘Feuermann’, on the other hand, is one of his smallest cellos. It is said that Stradivari attempted to create a ‘piccolo cello’ (small cello) to pursue clearer and projecting sound for soloists. So I had to completely change my style of playing.”

He has a great respect for Emanuel Feuermann, whom the cello was named after. Also, having won the very first Grand Prix at the Emanuel Feuermann Competition, he feels quite close to Feuermann. “I have many of his recordings and am familiar with his music, so this cello is very special to me. Feuermann played delicately and effortlessly, yet the cello resonated tremendously. I just feel music produced and not the performance of the player. I have tried his style, but there was a vast difference between listening and actually playing. It took me two and a half years to finally become friends with this instrument.”

He very much adores the sound of “Feuermann”. He still further expands the range of sound and sensitive expression in addition to what he already had: his own deep rich sound, high dynamic range and fine technique. “This cello is well suited to play the works from the classical period such as Haydn’s. My bowing has changed.”

It will be his eighth time to take part in Nippon Music Foundation’s Encounter with Stradivari concert series both in Japan and abroad. “It is like a family reunion. I always look forward to seeing the fellow distinguished musicians and performing with them.” It was his idea to perform Mendelssohn’s Octet with four violins, one viola and three cellos. He will perform second viola part on the cello. “I like playing the arranged versions especially when it is well suited for cello.” He is full of motivation. The Octet will certainly be the highlight of the program.

（Excerpted from “Sarasate” June 2016 issue）

日本音楽財団の「ストラディヴァリウス・コンサート」の歩み

日本音楽財団は所有するストラディヴァリウスの音色を多くの方々にお届けするため、ストラディヴァリウスのみを用いた、それらの貸与者による、「ストラディヴァリウス・コンサート」を世界各地で開催してきました。

1998 09.08 東京オペラシティコンサートホール (東京) Tokyo Opera City Concert Hall (Tokyo)

東京クワルテット Tokyo String Quartet	Stradivarius "Paganini Quartet"
ミハイル・コペルマン Mikhail Kopelman	池田菊衛 Kikuei Ikeda
磯村和英 Kazuhide Isomura	原田禎夫 Sadao Harada
ニコライ・ズナイダー Nikolaj Znaider	Stradivarius 1708 Violin "Huggins"
渡辺玲子 Reiko Watanabe	Stradivarius 1709 Violin "Engleman"
樫本大進 Daishin Kashimoto	Stradivarius 1722 Violin "Jupiter"
徳永二男 Tsugio Tokunaga	Stradivarius 1736 Violin "Muntz"
林 絵里 Eri Hayashi	Piano
ストラディヴァリウス 8 挺 8 Stradivarius instruments	
日本音楽財団 25 周年記念 25th Anniversary of Nippon Music Foundation	

2001 04.18 スウェーデン王宮 (ストックホルム) The Royal Palace of Sweden (Stockholm)

04.19 スウェーデン王立音楽アカデミー (ストックホルム) Royal Swedish Academy of Music (Stockholm)

東京クワルテット Tokyo String Quartet	Stradivarius "Paganini Quartet"
ミハイル・コペルマン Mikhail Kopelman	池田菊衛 Kikuei Ikeda
磯村和英 Kazuhide Isomura	クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith
ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner	Stradivarius 1717 Violin "Sasserno"
樫本大進 Daishin Kashimoto	Stradivarius 1722 Violin "Jupiter"
マリン・ブロマン Malin Broman	Stradivarius 1709 Violin "Ex-Crafoord" *
サイモン・クローフォード・フィリップス Simon Crawford Philips	Piano
ストラディヴァリウス 7 挺 7 Stradivarius instruments	
* スウェーデン音楽院より借用 Loaned from Royal Swedish Academy of Music	

2001 05.23 ランカスター・ハウス (ロンドン) Lancaster House (London)

東京クワルテット Tokyo String Quartet	Stradivarius "Paganini Quartet"
ミハイル・コペルマン Mikhail Kopelman	池田菊衛 Kikuei Ikeda
磯村和英 Kazuhide Isomura	クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith
渡辺玲子 Reiko Watanabe	Stradivarius 1709 Violin "Engleman"
ユリア・フィッシャー Julia Fischer	Stradivarius 1716 Violin "Booth"
ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner	Stradivarius 1717 Violin "Sasserno"
樫本大進 Daishin Kashimoto	Stradivarius 1722 Violin "Jupiter"
スティーヴン・イッサーリス Steven Isserlis	Stradivarius 1730 Cello "Feuermann"
	Stradivarius 1696 Viola "Archinto" *
イアン・ブラウン Ian Brown	Piano
ストラディヴァリウス 10 挺 10 Stradivarius instruments	
* 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK)	

2002 10.25 保利劇場 (北京) Poly Theater (Beijing)

10.26 釣魚台迎賓館 (北京) Diaoyutai State Guesthouse (Beijing)

東京クワルテット Tokyo String Quartet	Stradivarius "Paganini Quartet"
マーティン・ビーヴァー Martin Beaver	池田菊衛 Kikuei Ikeda
磯村和英 Kazuhide Isomura	クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith
バイバ・スクリダ Baiba Skride	Stradivarius 1708 Violin "Huggins"
リサ・バティアシュヴィリ Lisa Batiashvili	Stradivarius 1709 Violin "Engleman"
諏訪内晶子 Akiko Suwanai	Stradivarius 1714 Violin "Dolphin"
ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner	Stradivarius 1717 Violin "Sasserno"
林 絵里 Eri Hayashi	Piano
ストラディヴァリウス 8 挺 8 Stradivarius instruments	
日中国交正常化記念 30 周年 30th Anniversary of Normalization of China-Japan Diplomatic Relations	

2003

- 11.26 東京オペラシティコンサートホール (東京) Tokyo Opera City Concert Hall (Tokyo)
- | | |
|---|---------------------------------------|
| 内田 輝 Teru Uchida | Stradivarius 1700 Violin "Dragonetti" |
| 諏訪内晶子 Akiko Suwanai | Stradivarius 1714 Violin "Dolphin" |
| 佐藤俊介 Shunsuke Sato | Stradivarius 1725 Violin "Wilhelmj" |
| ジュディシュ・インゴルフソン Judith Ingolfsson | Stradivarius 1736 Violin "Muntz" |
| クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith | Stradivarius 1736 Cello "Paganini" |
| ロイヤルチェンバーオーケストラ Royal Chamber Orchestra | |
| ストラディヴァリウス 5 挺 5 Stradivarius instruments | |
- 11.27 東京オペラシティコンサートホール (東京) Tokyo Opera City Concert Hall (Tokyo)
- | | |
|---|-------------------------------------|
| バイバ・スクリデ Baiba Skride | Stradivarius 1708 Violin "Huggins" |
| ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner | Stradivarius 1717 Violin "Sasserno" |
| 榎本大進 Daishin Kashimoto | Stradivarius 1722 Violin "Jupiter" |
| 磯村和英 Kazuhide Isomura | Stradivarius 1731 Viola "Paganini" |
| ロイヤルチェンバーオーケストラ Royal Chamber Orchestra | |
| ストラディヴァリウス 4 挺 4 Stradivarius instruments | |
- 11.28 東京芸術劇場 (東京) Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo)
- | | |
|---|-------------------------------------|
| 東京クワルテット Tokyo String Quartet | Stradivarius "Paganini Quartet" |
| マーティン・ビーヴァー Martin Beaver | 池田菊衛 Kikuei Ikeda |
| 磯村和英 Kazuhide Isomura | クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith |
| バイバ・スクリデ Baiba Skride | Stradivarius 1708 Violin "Huggins" |
| 諏訪内晶子 Akiko Suwanai | Stradivarius 1714 Violin "Dolphin" |
| ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner | Stradivarius 1717 Violin "Sasserno" |
| 榎本大進 Daishin Kashimoto | Stradivarius 1722 Violin "Jupiter" |
| 佐藤俊介 Shunsuke Sato | Stradivarius 1725 Violin "Wilhelmj" |
| ジュディシュ・インゴルフソン Judith Ingolfsson | Stradivarius 1736 Violin "Muntz" |
| 江口 玲 Akira Eguchi | Piano |
| ストラディヴァリウス 10 挺 10 Stradivarius instruments | |

2004

- 04.04 モーツアルテウム (ザルツブルク) Mozarteum (Salzburg)
- | | |
|--|--|
| 東京クワルテット Tokyo String Quartet | Stradivarius "Paganini Quartet" |
| マーティン・ビーヴァー Martin Beaver | 池田菊衛 Kikuei Ikeda |
| 磯村和英 Kazuhide Isomura | クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith |
| 安永 徹 Toru Yasunaga | Stradivarius 1702 Violin "Lord Newlands" |
| バイバ・スクリデ Baiba Skride | Stradivarius 1708 Violin "Huggins" |
| リサ・バティアシュヴィリ Lisa Batiashvili | Stradivarius 1709 Violin "Engleman" |
| 諏訪内晶子 Akiko Suwanai | Stradivarius 1714 Violin "Dolphin" |
| ユリア・フィッシャー Julia Fischer | Stradivarius 1716 Violin "Booth" |
| ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner | Stradivarius 1717 Violin "Sasserno" |
| 榎本大進 Daishin Kashimoto | Stradivarius 1722 Violin "Jupiter" |
| 佐藤俊介 Shunsuke Sato | Stradivarius 1725 Violin "Wilhelmj" |
| 石坂団十郎 Danjulo Ishizaka | Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford" |
| | Stradivarius 1696 Viola "Archinto" * |
| 市野あゆみ Ayumi Ichino | Piano |
| ストラディヴァリウス 14 挺 14 Stradivarius instruments | |
| * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK) | |
| ザルツブルク・イースター音楽祭公式プログラム Official Salzburg Easter Festival Program | |

2005

- 10.09 リンゴット・コンGRESS・センター (トリノ) Centro Congressi Lingotto (Torino)
- 10.11 ザルツブルク大学講堂 (ザルツブルク) Aula Academica der Universität Salzburg (Salzburg)
- 10.13 パーク・ハイアット・チューリッヒ (チューリッヒ) Park Hyatt Zurich (Zurich)
- | | |
|---|--|
| 東京クワルテット Tokyo String Quartet | Stradivarius "Paganini Quartet" |
| マーティン・ビーヴァー Martin Beaver | 池田菊衛 Kikuei Ikeda |
| 磯村和英 Kazuhide Isomura | クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith |
| エリック・シューマン Erik Schumann | Stradivarius 1700 Violin "Dragonetti" |
| 諏訪内晶子 Akiko Suwanai | Stradivarius 1714 Violin "Dolphin" |
| 佐藤俊介 Shunsuke Sato | Stradivarius 1716 Violin "Booth" |
| 榎本大進 Daishin Kashimoto | Stradivarius 1722 Violin "Jupiter" |
| バイバ・スクリデ Baiba Skride | Stradivarius 1725 Violin "Wilhelmj" |
| 石坂団十郎 Danjulo Ishizaka | Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford" |
| | Stradivarius 1696 Viola "Archinto" * |
| 占部由美子 Yumiko Urabe | Piano |
| ストラディヴァリウス 11 挺 11 Stradivarius instruments | |
| * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK) | |

2006	10.05	ブリュッセル芸術センター Palais des Beaux-Arts (Brussels)	
		東京クワルテット Tokyo String Quartet マーティン・ビーヴァー Martin Beaver 磯村和英 Kazuhide Isomura 木嶋真優 Mayu Kijima セルゲイ・ハチャトゥリアン Sergey Khachatryan 竹澤恭子 Kyoko Takezawa 庄司紗矢香 Sayaka Shoji ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner 樫本大進 Daishin Kashimoto ヨゼフ・カルリーチェク Josef Karlicek 占部由美子 Yumiko Urabe ストラディヴァリウス 12 挺 12 Stradivarius instruments * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK)	Stradivarius "Paganini Quartet" 池田菊衛 Kikuei Ikeda クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith Stradivarius 1700 Violin "Dragonetti" Stradivarius 1708 Violin "Huggins" Stradivarius 1710 Violin "Camposelice" Stradivarius 1715 Violin "Joachim" Stradivarius 1717 Violin "Sasserno" Stradivarius 1722 Violin "Jupiter" Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford" Stradivarius 1696 Viola "Archinto" * Piano
	10.09	聖シモン&聖ユダ教会 (プラハ) Church of Sts. Simon and Jude (Prague)	
		東京クワルテット Tokyo String Quartet マーティン・ビーヴァー Martin Beaver 磯村和英 Kazuhide Isomura 木嶋真優 Mayu Kijima 竹澤恭子 Kyoko Takezawa ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner 樫本大進 Daishin Kashimoto バイバ・スクリデ Baiba Skride ヨゼフ・カルリーチェク Josef Karlicek 占部由美子 Yumiko Urabe ストラディヴァリウス 11 挺 11 Stradivarius instruments * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK)	Stradivarius "Paganini Quartet" 池田菊衛 Kikuei Ikeda クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith Stradivarius 1700 Violin "Dragonetti" Stradivarius 1710 Violin "Camposelice" Stradivarius 1717 Violin "Sasserno" Stradivarius 1722 Violin "Jupiter" Stradivarius 1725 Violin "Wilhelmj" Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford" Stradivarius 1696 Viola "Archinto" * Piano
2007	10.07	キャッスルトン・ファームズ シアターハウス (ヴァージニア) The Theatre House, Castleton Farms (Virginia)	
	10.09	カナダ国立美術館 (オタワ) National Gallery of Canada (Ottawa)	
		東京クワルテット Tokyo String Quartet マーティン・ビーヴァー Martin Beaver 磯村和英 Kazuhide Isomura 諏訪内晶子 Akiko Suwanai 庄司紗矢香 Sayaka Shoji アラベラ・美歩・シュタインバッハー Arabella Miho Steinbacher ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner エリック・シューマン Erik Schuman 川久保陽紀 Tamaki Kawakubo 石坂団十郎 Danjulo Ishizaka 占部由美子 Yumiko Urabe ストラディヴァリウス 12 挺 12 Stradivarius instruments * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK)	Stradivarius "Paganini Quartet" 池田菊衛 Kikuei Ikeda クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith Stradivarius 1714 Violin "Dolphin" Stradivarius 1715 Violin "Joachim" Stradivarius 1716 Violin "Booth" Stradivarius 1717 Violin "Sasserno" Stradivarius 1722 Violin "Jupiter" Stradivarius 1736 Violin "Muntz" Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford" Stradivarius 1696 Viola "Archinto" * Piano
2008	09.06	いずみホール (大阪) Izumi Hall (Osaka)	
	09.07	しらかわホール (名古屋) Shirakawa Hall (Nagoya)	
	09.09	サントリーホール (東京) Suntory Hall (Tokyo)	
		東京クワルテット Tokyo String Quartet マーティン・ビーヴァー Martin Beaver 磯村和英 Kazuhide Isomura セルゲイ・ハチャトゥリアン Sergey Khachatryan 竹澤恭子 Kyoko Takezawa 庄司紗矢香 Sayaka Shoji アラベラ・美歩・シュタインバッハー Arabella Miho Steinbacher ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner エリック・シューマン Erik Schumann バイバ・スクリデ Baiba Skride 有希・マヌエラ・ヤンケ Yuki Manuela Janke 石坂団十郎 Danjulo Ishizaka	Stradivarius "Paganini Quartet" 池田菊衛 Kikuei Ikeda クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith Stradivarius 1708 Violin "Huggins" Stradivarius 1710 Violin "Camposelice" Stradivarius 1715 Violin "Joachim" Stradivarius 1716 Violin "Booth" Stradivarius 1717 Violin "Sasserno" Stradivarius 1722 Violin "Jupiter" Stradivarius 1725 Violin "Wilhelmj" Stradivarius 1736 Violin "Muntz" Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford"

スティーヴン・イッサーリス Steven Isserlis
 Stradivarius 1730 Cello "Feuermann"
 Stradivarius 1696 Viola "Archinto" *
 Harpsichord
 Piano

小林道夫 Michio Kobayashi
 江口 玲 Akira Eguchi
 ストラディヴァリウス 15 挺 15 Stradivarius instruments
 * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK)
 日本音楽財団 35 周年記念 35th Anniversary of Nippon Music Foundation

2009

11.05 ヘルムート・リスト・ホール (グラーツ) Helmut-List-Hall (Graz)

11.07 アカデミア美術館 (フィレンツェ) Galleria dell'Accademia (Florence)

東京クワルテット Tokyo String Quartet
 マーティン・ビーヴァー Martin Beaver
 磯村和英 Kazuhide Isomura
 リサ・バティアシュヴィリ Lisa Batiashvili
 竹澤恭子 Kyoko Takezawa
 エリック・シューマン Erik Schumann
 バイバ・スクリデ Baiba Skride
 有希・マヌエラ・ヤンケ Yuki Manuela Janke
 石坂団十郎 Danjulo Ishizaka

Stradivarius "Paganini Quartet"
 池田菊衛 Kikuei Ikeda
 クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith
 Stradivarius 1709 Violin "Engleman"
 Stradivarius 1710 Violin "Camposelice"
 Stradivarius 1722 Violin "Jupiter"
 Stradivarius 1725 Violin "Wilhelmj"
 Stradivarius 1736 Violin "Muntz"
 Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford"
 Stradivarius 1696 Viola "Archinto" *
 Piano

占部由美子 Yumiko Urabe
 ストラディヴァリウス 11 挺 11 Stradivarius instruments
 * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK)

2010

10.07 ルーヴル美術館 (パリ) Auditorium of the Louvre Museum (Paris)

東京クワルテット Tokyo String Quartet
 マーティン・ビーヴァー Martin Beaver
 磯村和英 Kazuhide Isomura
 セルゲイ・ハチャトゥリアン Sergey Khachatryan
 シン・ヒヨンス Hyun-Su Shin
 諏訪内晶子 Akiko Suwanai
 ゲザ・ホッス=レゴツキ Geza Hosszu-Legocky
 アラベラ・美歩・シュタインバッハー Arabella Miho Steinbacher
 ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner
 マンリコ・パドヴァーニ Manrico Padovani
 有希・マヌエラ・ヤンケ Yuki Manuela Janke
 石坂団十郎 Danjulo Ishizaka
 スティーヴン・イッサーリス Steven Isserlis

Stradivarius "Paganini Quartet"
 池田菊衛 Kikuei Ikeda
 クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith
 Stradivarius 1702 Violin "Lord Newlands"
 Stradivarius 1710 Violin "Camposelice"
 Stradivarius 1714 Violin "Dolphin"
 Stradivarius 1715 Violin "Joachim"
 Stradivarius 1716 Violin "Booth"
 Stradivarius 1717 Violin "Sasserno"
 Stradivarius 1722 Violin "Jupiter"
 Stradivarius 1736 Violin "Muntz"
 Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford"
 Stradivarius 1730 Cello "Feuermann"
 Stradivarius 1696 Viola "Archinto" *
 Harpsichord
 Piano

マギー・コール Maggie Cole
 占部由美子 Yumiko Urabe
 ストラディヴァリウス 15 挺 15 Stradivarius instruments
 * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK)

2012

09.06 福岡シンフォニーホール (福岡) Fukuoka Symphony Hall (Fukuoka)

09.08 兵庫県立芸術文化センター (西宮) Hyogo Performing Arts Center (Nishinomiya)

09.10 サントリーホール (東京) Suntory Hall (Tokyo)

東京クワルテット Tokyo String Quartet
 マーティン・ビーヴァー Martin Beaver
 磯村和英 Kazuhide Isomura
 レイ・チェン Ray Chen
 スヴェトリン・ルセフ Svetlin Roussev
 ヴィヴィアン・ハーグナー Viviane Hagner
 セルゲイ・ハチャトゥリアン Sergey Khachatryan
 有希・マヌエラ・ヤンケ Yuki Manuela Janke
 石坂団十郎 Danjulo Ishizaka

Stradivarius "Paganini Quartet"
 池田菊衛 Kikuei Ikeda
 クライヴ・グリーンズミス Clive Greensmith
 Stradivarius 1702 Violin "Lord Newlands"
 Stradivarius 1710 Violin "Camposelice"
 Stradivarius 1717 Violin "Sasserno"
 Stradivarius 1722 Violin "Jupiter"
 Stradivarius 1736 Violin "Muntz"
 Stradivarius 1696 Cello "Lord Aylesford"
 Stradivarius 1696 Viola "Archinto" *
 Piano

江口 玲 Akira Eguchi
 ストラディヴァリウス 11 挺 11 Stradivarius instruments
 * 英国王立音楽院より借用 Loaned from Royal Academy of Music (UK)

協賛企業（順不同）

福岡トヨタ自動車株式会社

福岡トヨペット株式会社

トヨタカローラ福岡株式会社

トヨタカローラ博多株式会社

ネットトヨタ福岡株式会社

えん株式会社

株式会社ゼンリン

大成印刷株式会社

株式会社ホテル日航福岡

株式会社やずや

タイトな予定 ハードな毎日 スマートに完了

あなたを中心に
設計された
くつろぎの空間



すべてあなたのための大切な時間です。
機内で最後のメールチェックを終えた瞬間から、
リラックスを感じ始める瞬間までもルフトハンザ
のフライトは、すべてあなたが求めるままに設計
されています。ビジネスクラスではヨーロッパの
レストランのように専任の客室乗務員がご対応に
あたる「レストランサービス」をスタート。
空の上では、あなたが毎日をスマートに乗り切れる
ように、くつろぎのひと時を味わってほしいから。



Lufthansa

Legacy Gift


遺したかったのは、
未来への贈り物



Legacy gift (遺贈)とは、遺言書により遺産を寄付することです。
日本財団遺贈寄付サポートセンターは、遺言書の作り方や、
人生のしめくくりのあらゆるご心配についてご相談を受付けています。
自筆証書遺言セットも無料で差し上げています。
お気軽にお電話ください。

お問い合わせ

日本財団 遺贈寄付サポートセンター

 **0120-331-531** (秘密厳守)

東京都港区赤坂1-2-2

受付時間：9：00～17：00 (平日)

ホームページ：www.izo-kifu.jp



Stradivarius 1714 Violin "Dolphin"